

## 二十四孝

二十四孝(にじゅうしこう)は、中国に於ける孝行が特に優れた人物二十四名を賞して、後世の模範とした物である。儒教の考えを重んじた歴代中国王朝は、親孝行を美德且つ当然の行いとして治世に活かした。

### 「郭巨(かくきよ)の絵馬」



大分県 宇佐市 宇佐八幡宮

2006/11/28撮影

## 郭巨(かくきよ)

郭巨(かくきよ)の家は貧しかったが、母と妻を養っていた。妻に子供が生まれ三歳になった。郭巨の母は孫を可愛がり、自分の少ない食事を分け与えていた。郭巨が妻に言うには「我が家は貧しく母の食事さえも足りないのに、孫に分けてはとて無理だ。夫婦であれば子供はまた授かるだろうが、母親は二度と授からない。ここはこの子を埋めて母を養おう」と。妻は悲嘆に暮れたが夫の命には従う他無く、三歳の子を連れて埋めに行く。郭巨が涙を流しながら地面を少し掘ると黄金の釜が出、その釜に文字が書いてあった。“孝行な郭巨に天からこれを与える。他人は盗ってはいけない”と。郭巨と妻は黄金の釜を頂き喜び、子供と一緒に家に帰って更に母に孝行を尽くした。